

新規トンネル資材の効果確認試験

JAえんゆう

小崎 光



①2020.2.21 左CTトンネル 右オニオンホット ②2020.3.25 左CTトンネル 右オニオンホット ③2020.3.25 左CTトンネル 右オニオンホット



④2020.3.25 CTトンネル ⑤2020.3.25 オニオンホット ⑥2020.4.17 左CTトンネル 右オニオンホット

試験目的	玉ネギ用トンネル用POの実用性確認
試験作物 及び品種	玉ネギ
試験資材 及び数量(規格)	クリンテートトンネル(0.05mm×460cm×100m)
慣行資材	オニオンホット(0.05mm×460cm×100m)
栽培方法	播種日 2月18日
資材使用期間	2月中旬～4月中旬

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

開反時の静電気は試験品のほうが少なく展張しやすい。

開閉作業については遜色ないが、試験品のほうがハリがあると感じた。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

試験品、慣行品ともに同様の管理を行ったが、温度も同等で、生育差もなかった。

(3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】 開反時の静電気は試験品のほうが少なく展張しやすい。試験品のほうがフィルムにハリ、硬さがあるため、開閉時に引っ張りやすい。

【問題点】 特になし。

(4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

特に差はみられないが、今後、継続使用して様子を見たい。

(5)保温効果について

温度差はほとんどなかった。

モニター感想

今年の試験品は慣行品と差はなかった。

農POである慣行品は、(おそらく保温力が低下することから)2年目以降に生育差があった。そのため同じく農POである試験品についても2年目以降の様子を見続けたい。

また、昨年試験した農ポリ(サンパワーホット)は2年目以降の生育差はあまりなかったが、流動性が農POより劣るため、開閉作業がしづらい。そのため、一度農POを使用すると作業性の観点から農ポリへは戻れない。

JA担当者の感想(田澤氏)

前回と同じく安価で保温力がある試験品とのことで取り進めていき、結果として生育や温度等の差はなく、作業性の方面で優位点があることからオニオンホットよりも作業効率が高い資材となった。昨今のトレンドである効率的な営農が求められている中でそれに適した資材であり、今後も試験や推進等を取り進めていきたい。

今後の使用について

継続して使用したい。

1 農家のフィルム
2 マルチ
3 不織布
4 育苗資材
5 トンネル資材
6 防虫ネット
7 酪農資材
8 ICT機器
9 その他